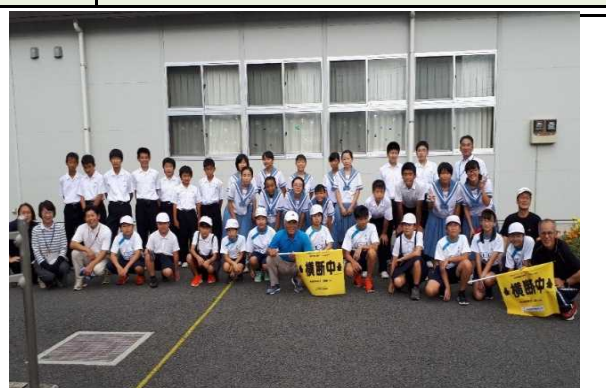


こんな活動です

『玉陵は一つ』未来へつなぐ！地域学校協働活動 ～地域の教育力を生かした小中一貫教育～

| | | |
|--------|--------------------|---------------------|
| 熊本県玉名市 | ●活動名 | ●関係する学校名 |
| | 玉名市立玉陵小中学校 学校運営協議会 | 玉名市立玉陵中学校 玉名市立玉陵小学校 |

| | | | | | |
|--------------------|--|-------------|----------------|----------|--------|
| 協働活動開始年度 | 平成 21 年度 | 学校運営協議会 | 指定・設置日 | 地域学校協働本部 | 有 |
| | | | 平成22年4月1日指定 | | |
| 活動区分 | 学校支援活動 | | 地域課題解決学習 | | 地域人材育成 |
| | — | | — | | |
| 統括的な地域学校協働活動推進員等の数 | | 配置人数 | 地域学校協働活動推進員等の数 | | 配置人数 |
| | | | | | 2人 |
| ボランティアの数 | 延べ登録人数 | 企業・NPO等との連携 | 無 | ICT機器活用 | 無 |
| | 101人 | | | | |
| 参考URL | https://es.higo.ed.jp/gyokuryo/(玉陵小学校) https://jh.higo.ed.jp/gyokuryo/(玉陵中学校) | | | | |



| | | |
|------|-------------------|----------------|
| ●連絡先 | 玉名市教育委員会コミュニティ推進課 | ☎ 0968-75-1312 |
|------|-------------------|----------------|

●活動の概要・経緯

玉名市立玉陵中学校は、平成21年度に文部科学省「コミュニティ・スクール調査研究校」に指定され、翌年、学校運営協議会が設置された。平成30年度には、本中学校区内6小学校が統合し、玉陵小学校としてスタートし、施設一体型小中一貫教育校となった。同時に学校運営協議会も小中合同の協議会になり3年目をむかえた。令和2年度からは学校運営協議会委員の内2名が、地域学校協働活動推進員として委嘱された。このことにより、旧6小学校区の垣根を越えた連携が加速し、『玉陵は一つ』を合言葉に、中学校を含めた地域学校協働活動がさらに充実するようになった。本市教委及び地域学校協働本部の指導助言のもと、地域の教育力を生かした小中一貫教育を行っており、「9年間で子供を育てる」強固な基盤が整った。現在、多くの学校支援やあいさつ運動、環境整備、地域との交流活動など、地域と学校が連携・協働した「双方向」の取組を展開している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①小中合同あいさつ運動…今年度で7年目となる活動であり、学校運営協議会委員と地域住民、児童・生徒会が毎朝行っている。実施後は、それぞれの立場で反省・評価などの振り返りを行うことで「コミュニティの場」にもなっている。
- ②学校のニーズに沿った支援…水泳、家庭科、キャリア教育講師など専門的な指導が必要な支援に対して、地域人材の発掘・提供を行っている。
- ③環境スクールボランティア…月1回、地域住民により学校内外の環境整備活動を実施。校内外には花で溢れ、活動日以外も花の手入れをする姿が見られる。また、JR九州新玉名駅には、開業と同時に設置された学校花壇を、子供達が常に整備している。
- ④「金栗四三」子供ボランティアガイド…日本初の五輪選手「金栗四三氏」の元住家でのボランティアガイドを小中学生が実施。本市地域学校協働本部を通じて、本市金栗四三PR推進室とタイアップした地域貢献活動。

【実施に当たっての工夫】

- 大人は、あいさつとともにその子供に応じた「声かけ」を行っており、子供達は、地域ぐるみで見守られていることを実感している。
- 地域学校協働活動推進員が小中学校に2名配置され、常時情報の共有化を図り、地域や学校の要望に迅速に対応している。
- 環境スクールボランティアは、紙媒体とともに学校のHPからの発信を積極的に行い、登録人数が2年間で12%増加した。
- 子供ボランティアガイドは、行政に協力依頼を行った結果、市の広報誌にも採用され、地域学校協働活動が広く周知された。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域学校協働活動推進員を通して、地区安全協会や玉名市民生委員と連携した交通安全教室や毎日の見守り活動があり、不審者事案や交通事故等の未然防止に寄与している。また、学校運営協議会内の部会と校区読み聞かせグループ(名称:「たまよりひめの会」25名)が連携し、毎月小中学校全学級に読み聞かせを実施し、読書環境の充実および読書意欲の喚起を図っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 環境が人をつくる…美しく整備された環境のもと、地域住民から毎日声をかけてもらうことで、子供達は安心して生活でき、落ち着いた学校生活を送ることができている。結果として、教職員の負担軽減がなされるようになり、働き方改革につながった。
- 地域が一つに…学校支援をはじめとした地域学校協働活動の取組が、統合後の旧6小学校区をつなぐ取組に変化している。学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員が学校で熟議を重ねながら、「地域どうしをつなぐ」役割を担うようになった。
- 地域と学校の「双方向」の深まり…各教科、学校行事での支援が充実しており、地域住民の教育力が、生きがいや自己実現の場になっている。一方、児童・生徒は地域住民から「してもらい」だけでなく、流鏝馬や神楽といった地域の祭り、敬老会の手伝いなどのボランティア活動に参加・参画する人数が年々増加し、積極的に貢献しようとする態度が見られるようになってきている。

●その他

「近所の人に会ったときは自分からあいさつをしていますか」(とても+だいたい)…本校:95.7%(全国:77.3%)(R元県学力調査)地域の大人からの声かけが、児童生徒の瞳を輝かせている。あいさつ運動や地域との連携が大きく寄与していることは確かである。



民JRと九州にも新花植え作業地域住民



子供ボランティアガイド